

新健康フロンティア戦略

(参考資料)

平成19年4月18日
新健康フロンティア戦略賢人会議

子どもの健康力

現 状

核家族化や
都市化の進展

出産・子育て期
の家族の孤立化

お産の場や小
児医療体制が不
充分

医療、保健、
福祉、教育の
連携が図られ
た支援体制が
不充分

家庭や地域を通じた生命や家族を大切にする意識の高まり
社会全体による子育てを応援する機運の醸成

家族の絆を深め、親子を支える食育の推進に向けた国民運動の展開
基本的な生活習慣づくりのための子どもの発達段階に応じた食育の推
進
子どもの食を守り、支える食育の推進

外遊びやスポーツに親しむ習慣や意欲の育成
学校教育活動全体を通じた健康と安全に配慮した体力向上の取組の
促進
家族や地域ぐるみで身近に運動・スポーツに親しむことができる環境の
整備

現在及び将来を見渡した産科医療のあり方の提示
産科・小児科医師等の確保・育成
地域の拠点病院の整備
小児医療提供体制の充実
地域における医療に係る相談・支援体制の構築、連携の促進
産科医療、小児医療の支援

妊娠期から子育て期に至る継続的な支援の推進
発達障害児等に対する包括的な支援体制の構築
発達障害児等に関する国民全体の理解の促進
発達障害児等を含む障害のある子どもへの特別支援教育の充実

家庭・地域におけ
る子育て支援体制
の構築

子どもの頃からの
食育の推進

外遊びやスポー
ツを通じた子ども
の体力の向上


産科医療・小児医
療の確保～安心・
安全なお産、子育
て支援の充実～

発達障害児等を支
援する体制の構築

子どもの健やかな育ちを支援する科学研究の推進

妊娠・出産の安全・安心の確保、子どもの健やかな
心身の育ち(子どもすくすく)と子育ての支援

こども医療未来図

課題		目標
救急医療等	<p>第一次救急から第三次救急まで、施設の役割に応じた救急医療供給体制の整備</p>	救急等の小児診療体制の整備、支援
小児固有の疾患に対する対策等	<p>小児難病、小児がん、アレルギー、小児メタボリック症候群の克服に対する対策</p> <p>胎児期・小児期から成人期に至るまでの継続的治療の実施</p>	小児に固有の疾患、メタボリック症候群患者等の減少 継続的医療の実施
子どもの感染症	<p>予防接種 早期診断・早期治療</p>	罹患率の減少 重症化予防
子どものこころ・発達	<p>発達障害等に対する早期発見・早期支援</p> <p>思春期のこころ対策</p>	子どものこころ・発達に関する問題の早期発見・支援 子どもの心の診療医の養成
高度先駆的医療の研究	<p>新たな診断治療法の開発</p> <p>胎児診断・胎児治療 遺伝子診断・遺伝子治療 再生医療</p>	再生(細胞)治療 移植医療 遺伝子治療 の実用化、治療成績向上
人材育成	<p>上記の課題を勘案した上での各領域での人材育成 人材育成へむけた教育・広報活動</p>	小児科医・産科医、薬剤師、助産師・看護師等コメディカルの確保

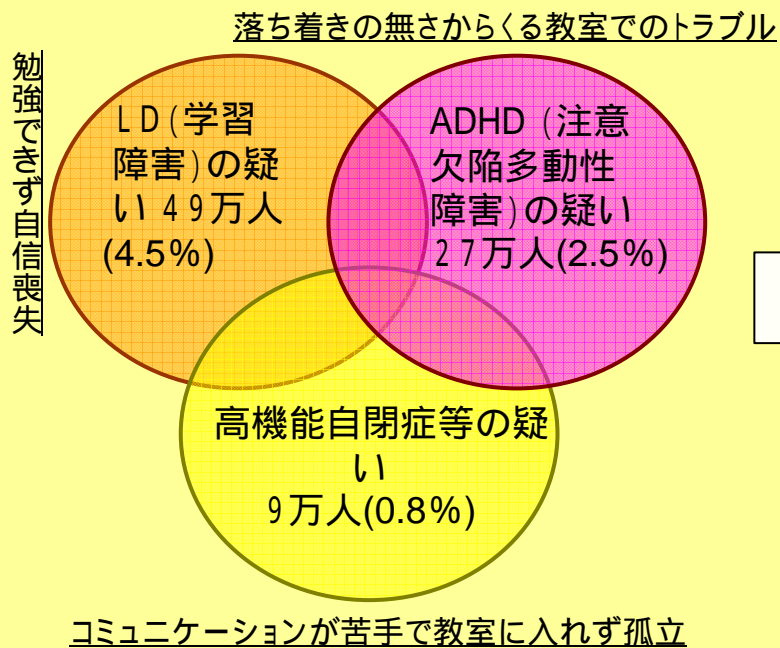
発達障害児の支援のための先端技術の活用

学習に困難を抱える子どもたちの実態(*1)

・小中学生の約6.3%(*2)

全国の小中学校に約68万人(発達障害の疑い)

主な発達障害



ネットや非行、不登校、いじめ等との関係も指摘されている

ユニークな知能の持ち主としての発達障害児

- ・ラテン語と中国語を独学で学ぶ不登校の子ども
- ・勉強はできるが集団に入れず孤立
- ・発想は豊かだが落ち着きがない
- ・IQ120にも関わらず字が書けない6年生の少年
- ・芸術文化の才能が優れている など

子どもの脳とこころの働きを解明する研究の推進

発達障害のある子どもの多様化を理解した学習支援方法の開発

(1) テクノロジーの活用による子どもの能力開発

(例)ノイズキャンセリングヘッドフォン(写真)、読み上げソフト、ワープロの活用 等



(2)学習環境の整備によるバリアの解消
(例)教材開発、学習スタイルの多様化

(3)障害の理解と就労に結びつく道筋の整備
(例)学習困難の要因診断とテクノロジー適用手法の開発 等

*1 以下の数字は文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査(2002年)」より

*2 上記調査の中で、学級担任を含む複数の教員が「知的発達に遅れはないものの、学習面や行動面で著しい困難を持っている」と判断した児童生徒の割合

女性の健康力

新戦略における主な具体的事項

思春期

妊娠・出産期

更年期

老年期

働き盛り期

課題

目標

やせすぎ

骨粗しょう症・
転倒骨折

歯周病・
むし歯

性感染症・人工
妊娠中絶

安心できる
お産

乳がん・
子宮がん

女性のニーズの
高い病気
(更年期障害、
リウマチ等)

「自分のカラダを知ろう」 キャンペーン

- ・健康を守る食に関する知識の普及啓発
- ・過度なダイエットの健康リスクの意識啓発
- ・歯・口の健康づくり
- ・性感染症や人工妊娠中絶の健康リスクの普及啓発
…等

[個別の介護予防プログラムを受けられる仕組みづくり]
転倒骨折予防プログラムなどの研究

[身近な場所で気軽に情報入手や相談ができる体制の整備 / 女性のニーズに合った医療の推進]

[ピアカウンセリング()等による健康教育]

()共通の悩みを抱えるなど価値観を共有する同世代の仲間が相談相手として行うカウンセリング

[周産期医療提供体制の整備]

[女性のがんへの挑戦]乳がんや乳がん・子宮がん検診についての普及啓発 / 安心して利用しやすい検診体制

[職場内における働く女性の健康への適切な対応の推進]

[地域で気軽に相談できる体制づくり / 女性のニーズに合った医療の推進]

女性の健康を支える地域のボランティア活動の支援、女性のニーズに合った医療に関する研究の推進

やせすぎの人でダイエットしている者の割合の減少

転倒骨折を主な原因とする要介護者の割合の減少

12歳児の一人平均歯数の減少、80歳で20歯以上の歯を有する割合の増加

性感染症の感染率、人工妊娠中絶率の減少

妊産婦死亡率、妊娠・出産について満足している者の割合、産科医療の確保

乳がん検診、子宮がん検診の受診者数を概ね倍増

気軽に健康について相談できる人や場所のある女性の割合の増加

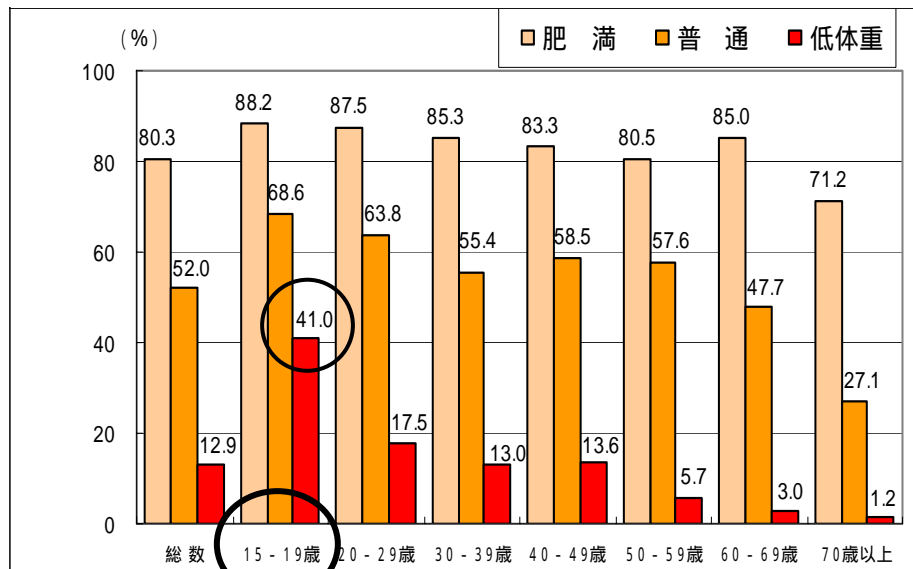


「やせすぎ」なのにダイエット？健康への影響



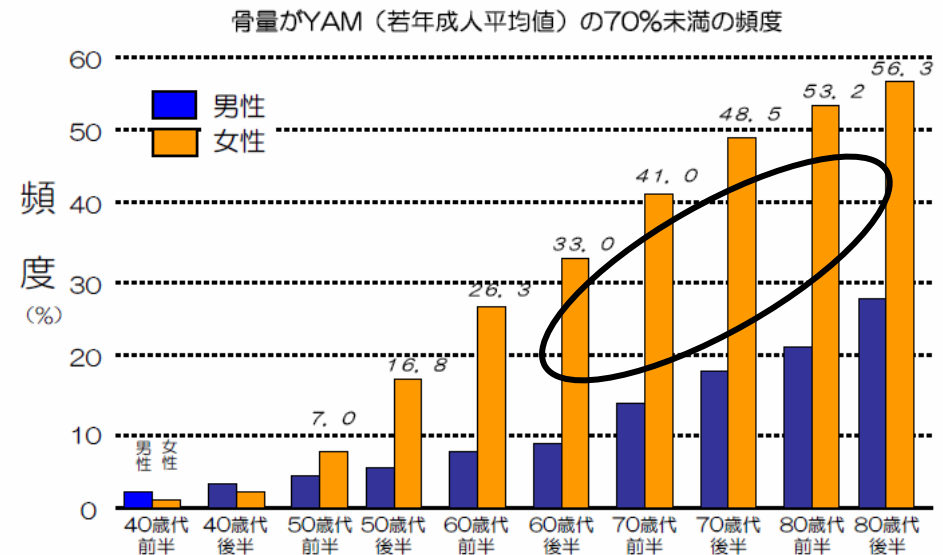
若い女性、特に10代の間で、
「やせすぎ」にもかかわらずダイエットをしている人が多い
骨密度の低下
いずれは骨粗しょう症や、転倒に起因して要介護状態に陥ることが多い

体重を減らそうとしている者の体重別割合（女性）

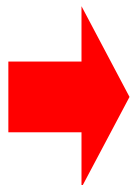


厚生労働省 平成14年国民栄養調査

年代別骨粗しょう症該当者の割合（推定）



山本逸雄：Osteoporosis Japan 7(1):10-11,1999より



- ・ 骨粗しょう症に関する知識の普及
- ・ 過度なダイエットの健康リスクの意識啓発
- ・ 健康を守る食に関する知識の普及啓発 ...等

（思春期向け）

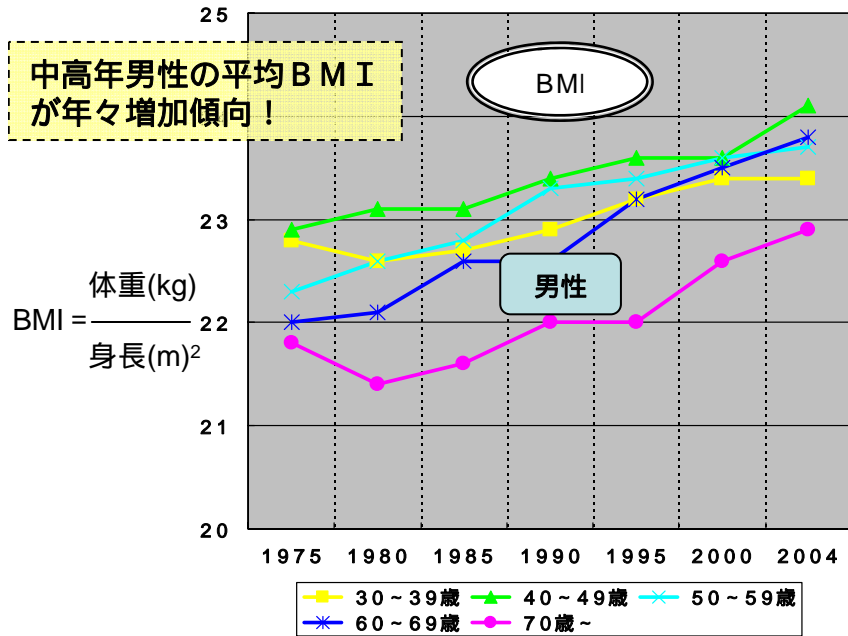
「自分のカラダを知ろう」
キャンペーン

課題

メタボ克服力(1)

目標

中高年男性の平均BMIが年々増加傾向!



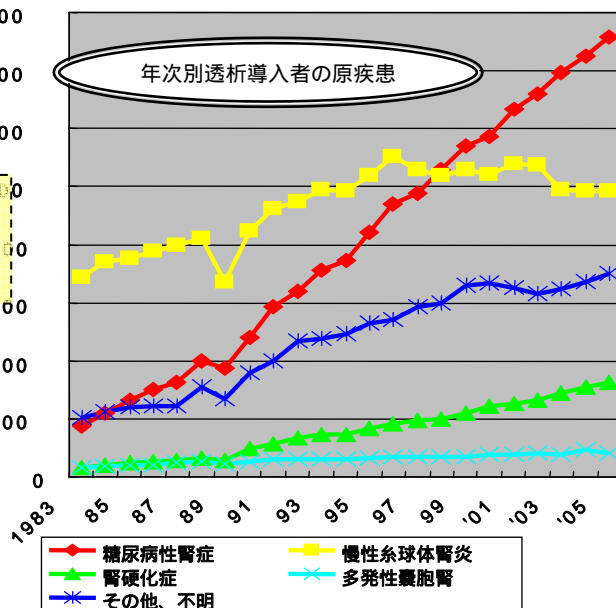
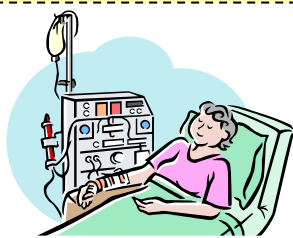
「メタボ退治」のための
国民運動の展開・健康関連産業
の育成
「テーラーメイド予防」に関する
研究開発と普及によるメタボの人の
減少!

糖尿病の
発生率を
減らします!

テーラーメイド予防
個人の遺伝素因等にも
配慮したテーラーメイド
的な予防



新規透析の原因で、
糖尿病によるものが
第一位に!



「テーラーメイド予防・治療」
のための司令塔づくりを進める!

「テーラーメイド治療」の
ための司令塔づくりを進め、
その研究開発・普及による
合併症発症の防止!

脳卒中
心疾患
による死亡を
減らします!

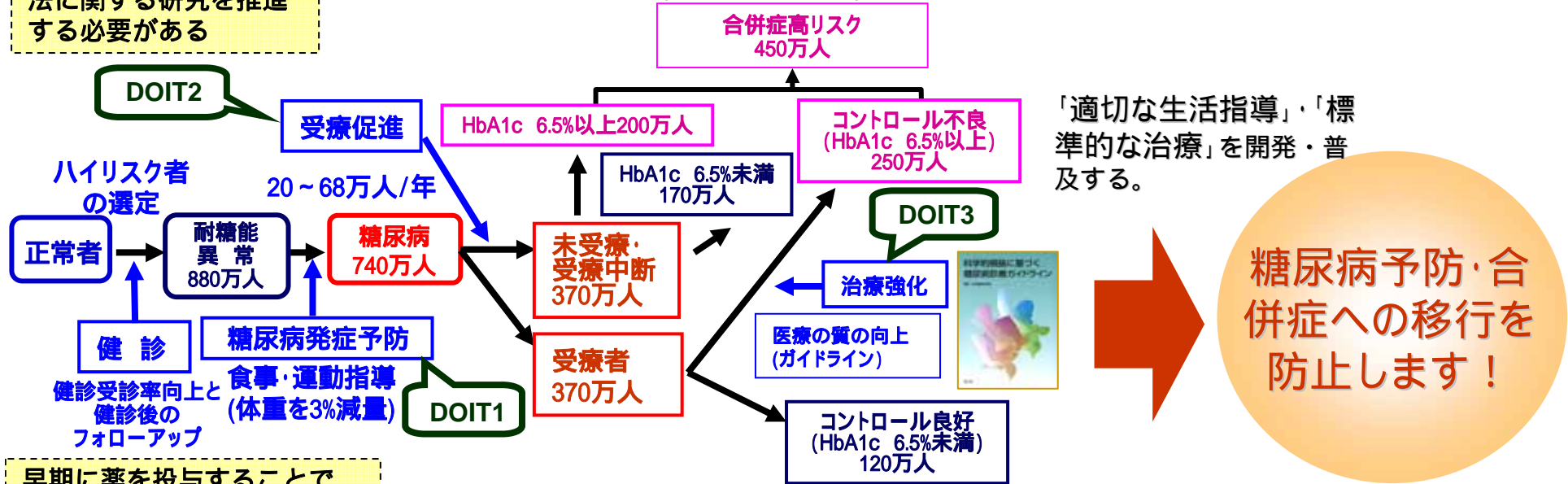
課題

メタボ克服力 (2)

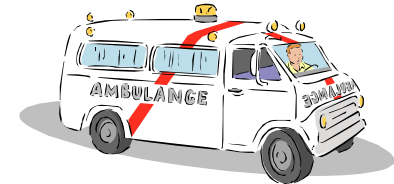
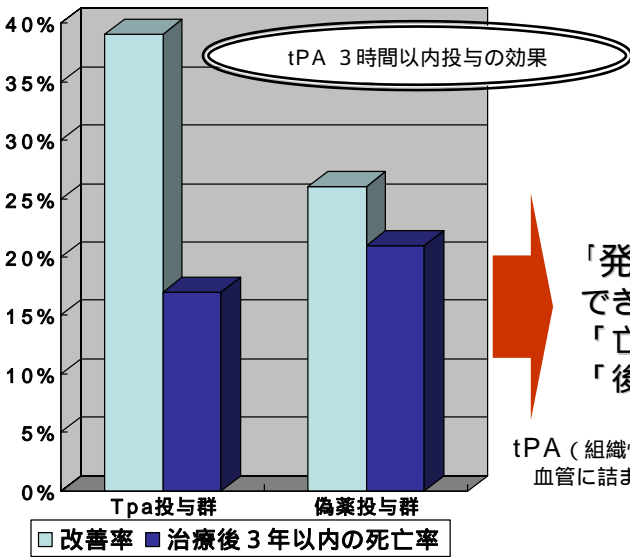
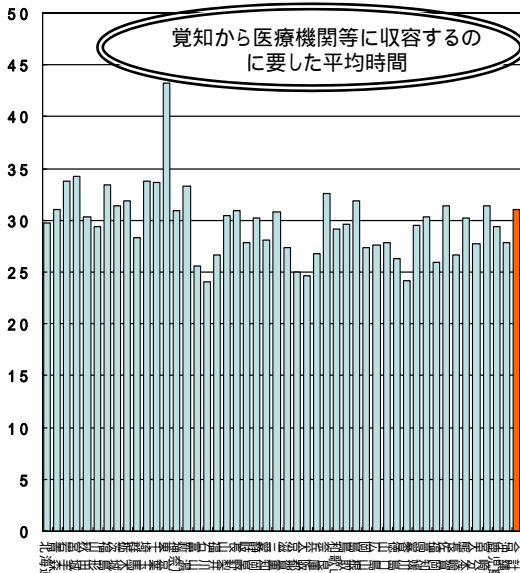
目標

糖尿病の予防法・治療法に関する研究を推進する必要がある

糖尿病のステージに応じた糖尿病の予防法・治療法の開発 J-DOIT (糖尿病戦略研究) (J-DOIT: Japan Diabetes Outcome Intervention Trial)



早期に薬を投与することで、脳卒中後の後遺症等が減少!



「発症 即、専門治療」ができる体制の整備を推進し、「亡くならない」! 「後遺症を残さない」!

tPA (組織性プラスミノゲン活性化因子) 血管に詰まった血栓を溶かす薬

脳卒中が原因で要介護状態となる割合を減らします!

図表: 新健康フロンティア戦略賢人会議 第3分科会資料より一部改変

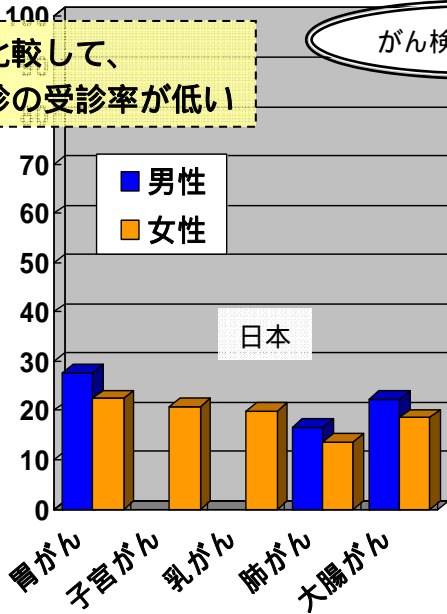
課題

がん克服力

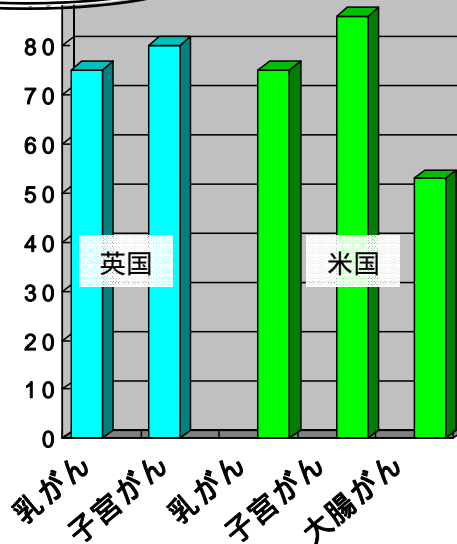
目標

欧米と比較して、
がん検診の受診率が低い

日本は単年度、英国・米国はそれぞれ複数年度（2または3年度）のデータとなっているため、直接比較することは難しい。



がん検診の受診率



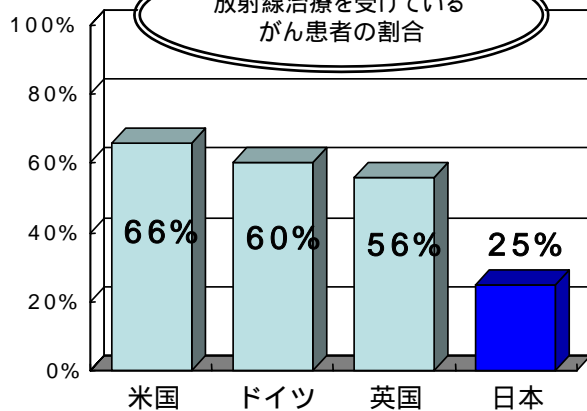
検診受診率向上を目指し、
がんの早期発見を推進！



「安心・身近な」
がん検診を
すすめます！

欧米と比較して、
・放射線治療を受けている患者 や
・医療用麻薬の消費量が少ない

放射線治療を受けている
がん患者の割合



放射線治療、
除痛、緩和ケア
などの普及で、
手術中心の治療から
集学的治療への転換！

どこでも誰にも
「スタンダード
(標準的な)治療」
を目指します！

集学的治療

手術、放射線療法、化学療法
などの専門的な治療を組み合
わせて提供する治療

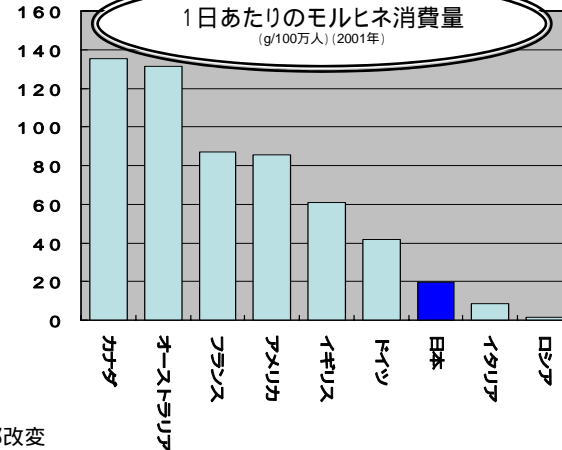


がん拠点病院
等の整備を推進
します。

がん拠点病院

地域がんの治療等の中核となる病院

1日あたりのモルヒネ消費量
(g/100万人) (2001年)



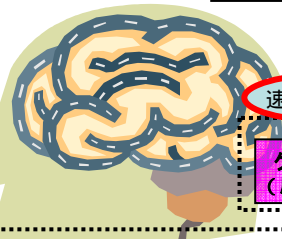
図表：新健康フロンティア戦略賢人会議 第3分科会資料より一部改変

課題

こころの健康力

目標

急速に増加するアルツハイマー病について、ステージに合わせた対策が必要



速やかに実施

ケア・リハビリテーション
(周辺症状・合併症への医療等)

5年後を目標

早期診断のための検査
(脳PET, MRI 等)

アミロイド沈着を軽減

10年後を目標

脳の代償機能の活用
(トレーニング等)

アルツハイマー病発症

認知機能の障害

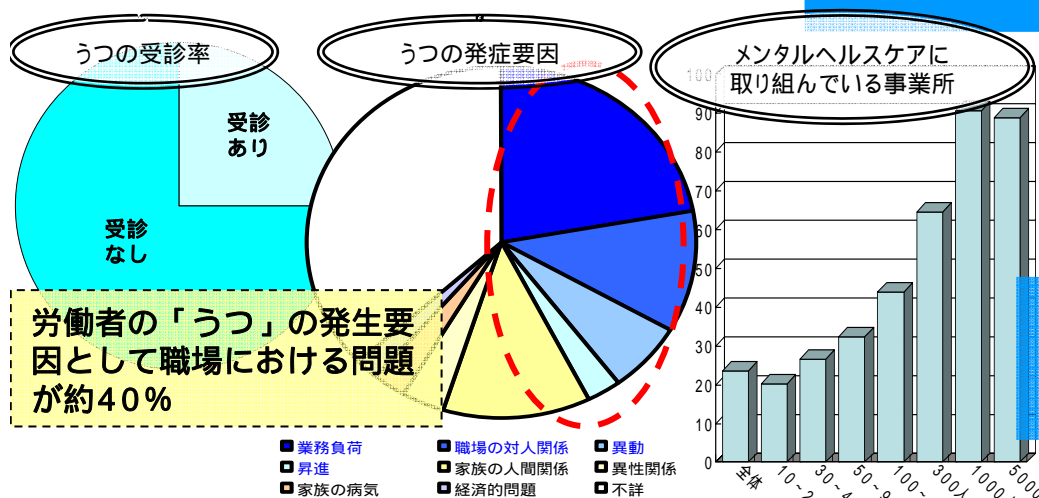
予防的介入
(有酸素運動、食事、睡眠等)

↑
↓
↑
↓
↑
↓
↑
↓

50歳 60歳 70歳 80歳

↑
↓
↑
↓
↑
↓
↑
↓

「うつ」で医療機関を受診する方は、非常に少ない



図表：新健康フロンティア戦略賢人会議 第3分科会資料より一部改変

労働者健康状況調査（平成14年）

症状の出現前に
早期診断ができる
技術の開発と実用化！

症状の進行に対応した
医療と福祉の
ベストミックス



認知症の方が
安心して暮らせる
地域づくり
を目指します！

うつに悩む方に対する
理解の推進を図り、
早期に医療機関を受診
する方を増やす！

うつの
早期発見、
早期治療開始
を推進します！

地域や職域での
理解の促進、相談体制
の整備、社会復帰プロ
グラムの開発！

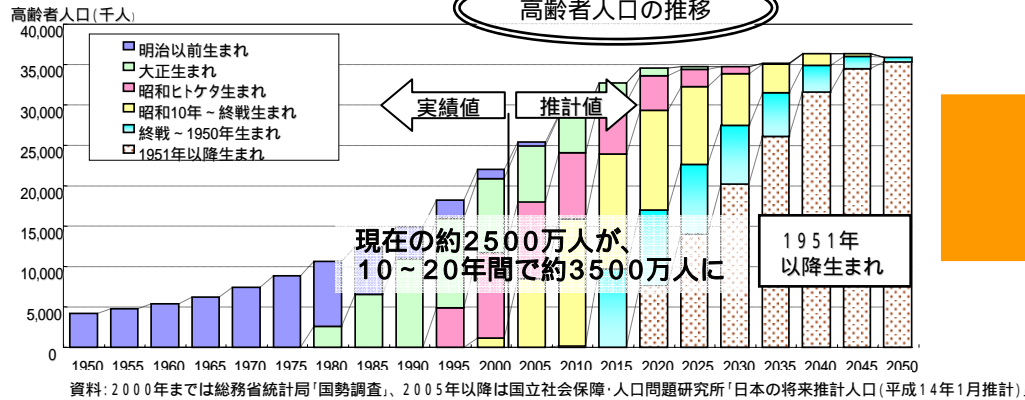
社会復帰の推進
を目指します！

課題

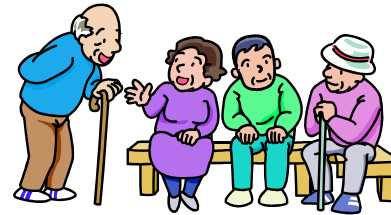
介護予防力

目標

現在、超高齢社会の入り口にさしかかっています

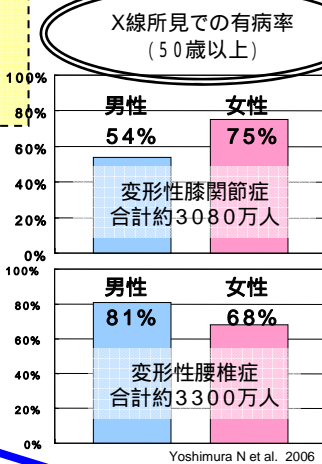


地域や国民全体で「生き生き暮らそう」「お達人人生を目指す」ための、運動や食事、口腔ケア等に取り組みやすい環境づくりを推進!



「からだ」と「気持ち」の老化を防ぎ、前向きに歳を重ねることを応援します!

「膝痛・腰痛で歩けない」動きたいのに、動けない・動かないの悪循環で要介護、寝たきり高齢者が増加



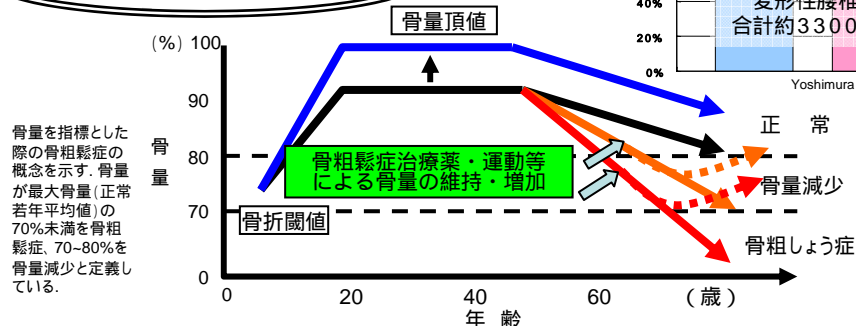
膝痛・腰痛の予防等の研究開発を促進し、痛みを訴える方を減らす!



膝痛や腰痛で「動かない・歩けない」の状態となることを防ぎます!

骨量が少ないと骨粗しょう症に、さらには骨折をしやすくなる。

骨しょう症対策の考え方






若い時期からの運動・食事等の対策を推進し、骨粗しょう症等を要因とした骨折の患者を減らす!

高齢者の骨折を減らします!

図表: 新健康フロンティア戦略賢人会議 第3分科会資料より一部改変

歯の健康力

課題	幼児期	学齢期	成人期	高齢期	寝たきり者	目標
う蝕予防対策	家庭における子どもの丈夫な歯づくりに関する知識の普及と実践 学校での口腔に関する健康教育の実施 歯の生え替わりの時期における丈夫な歯と噛み合わせに関する知識の普及と予防の推奨					12歳児の一人平均う歯数の減少
歯周疾患対策			妊産婦に対する予防の勧奨、乳幼児から生涯にわたる口腔に関する健康教育 喫煙と歯周病に関する知識の普及 成人期の歯周病に対する早期発見と進行抑制に関する知識の普及			糸ようじなど歯間清掃器具を使用する人の割合の増加
口腔ケア				 噛む機能と食べる機能の維持・確保に関する知識の普及 寝たきり者等に関する口腔清掃知識の普及 高齢者の口腔内や入れ歯の状態の定期的なチェックの推奨		80歳で20歯以上の歯を持つ人の割合の増加
噛む機能と食べる機能を維持するための研究の推進						
食育対策との連携		生活習慣病対策との連携				
8020運動の推進						
個人が行うセルフケアの推進 ~ブラッシングなど適切な口腔習慣の確立~						
歯科医師によるプロフェッショナルケアの推進 ~口腔内や入れ歯の状態の定期的なチェックなど~						



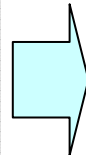
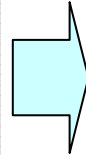
食の選択力(食育)

課題

食卓を通じた家族のふれあいの不足

小児期の肥満や思春期の不健康なやせ等

健全な食生活や食料の生産、流通等に関する知識と理解の不足



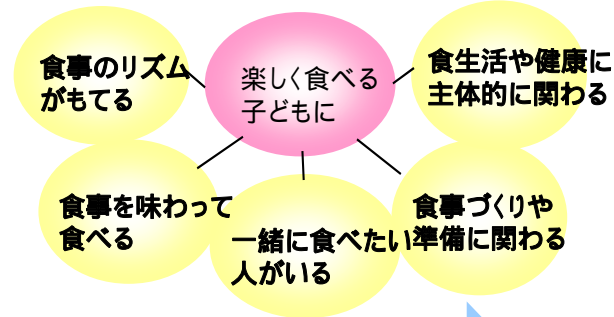
子どもの頃からの食育の推進

過度なダイエットの健康リスクに関する意識啓発

食に関する関心・知識の増進

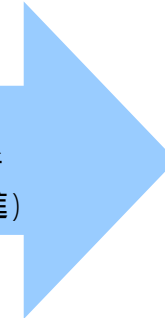
農業体験、自然体験等の促進

「食を通じた子どもの健全育成」の目標



国民運動の展開

(家庭、地域、学校、保育所等の連携による取組の推進)



「食事バランスガイド」



目標

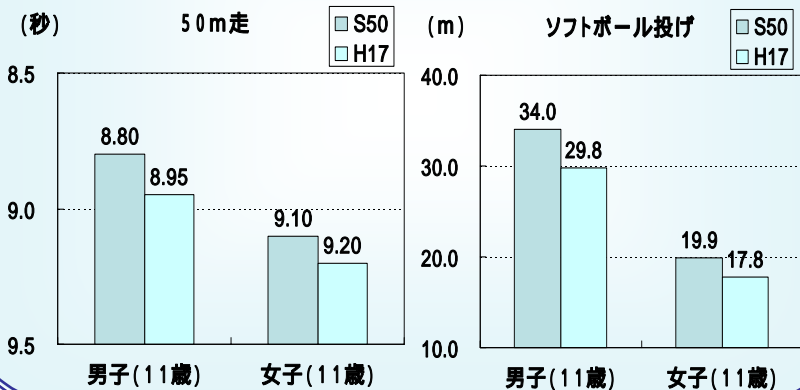
生涯にわたって健康な心と体を保ち、豊かな人間性をはぐくむ

食に関する知識と食を選択できる力を身につける
健やかな生活習慣を身につける
食卓を通して家族がふれあう機会を拡げる

スポーツ力

課題

体を動かす機会の減少により、あらゆる活動の源となる子どもの体力が長期的に低下傾向



対策

外遊びやスポーツを通じた子どもの体力の向上

外遊びやスポーツに親しむ習慣や意欲の育成

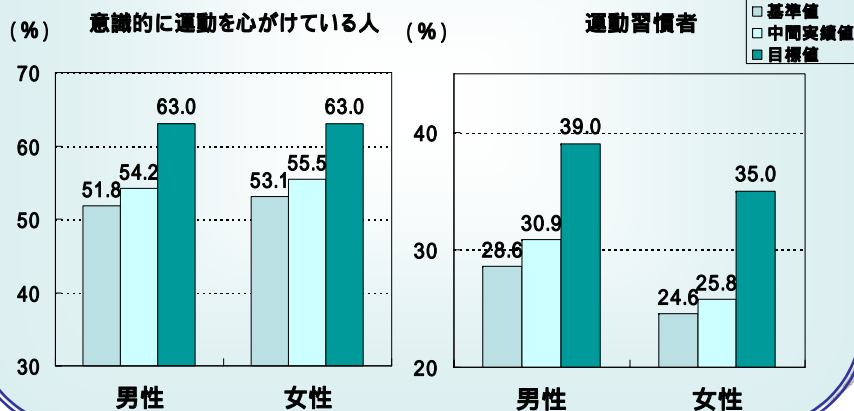
- ・体育授業や運動部活動の充実
- ・走る・跳ぶなどの基本動作を習得するためのプログラムづくり
- ・子どもの体力について国民意識の一層の喚起

家族や地域ぐるみで身近に運動・スポーツに親しむことができる環境の整備

- ・総合型地域スポーツクラブの全国展開
- ・屋外運動場の芝生化・維持・管理の取組の充実 等

課題

メタボリックシンドロームや生活習慣病の予防、高齢者の介護予防のためには運動が不十分



対策

一生涯にわたる豊かな「スポーツライフ」の実現

国民に対する運動・スポーツの普及・啓発

- ・「エクササイズガイド」の普及・啓発
- ・個々に応じた運動プログラムの提供 等

子どもから高齢者まで誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、運動・スポーツに親しむことができる環境の整備

- ・総合型地域スポーツクラブの全国展開
- ・運動・スポーツに親しむことができる機会の提供

目標

子どもから高齢者まで国民の誰もが、一生涯にわたって運動やスポーツに親しむことにより、体力の向上や精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など心身の両面に渡る健康の保持・増進を図る。

家庭力・地域力

課題

核家族化、都市化、少子化等の進展に伴う、近所付き合いや世代間のつながりを通じた支え合いの減少
子育てに関わる親力・家庭力の低下

子どもがすくすく育つ家庭・地域づくり

- ・子どもが安心してすごせる場の確保
- ・子どもの育ちや子育てについての理解の促進
- ・家庭で、地域で、食卓を囲み一緒に食べる意義を見直す運動
- ・家族や地域ぐるみで身近にスポーツに親しむことができる環境の整備
- ・子どもの製品等による事故情報の収集・共有・活用の推進

働き盛りによる地域活動への参画の推進

- ・地域（職域）ぐるみの健康づくり運動、メタボ対策の展開
- ・安心・身近ながん検診の普及推進
- ・地域でのうつへの理解促進と相談治療体制の整備
- ・家族が共に過ごす時間が持てるワークライフバランスの推進

地域・家庭で支える女性の安心

- ・親の健康づくりと健康知識の次世代への伝承
- ・地域でのピアカウンセリング等の手法を用いた健康教育
- ・地域での相談場所の設置

高齢者がいきいき暮らせる地域づくり

- ・住民の介護予防意識の向上、活力ある地域づくりの推進
- ・認知症対応ネットワーク
- ・認知症になっても本人や家族が安心して暮らせる地域づくり
- ・地域の介護予防活動の定着

目標

家庭の機能の強化と、地域コミュニティにおける世代間のつながりの回復を通じた健康安心の確保

公民館

町内会

家庭

学校

保健所

人間活動領域の拡張力

課題

高齢者

生活を楽しむ機
会の減少

有病者・ 障害者

苦痛など
就業・移動・自
立・コミュニケーションの制限

介護者

時間的、身体的
拘束



10年後

高齢者・ 有病者・ 障害者

生活を楽しむ機
会の増大
健康状態の向上
苦痛の軽減
就業・移動・コ
ミュニケーション
の機会の増大
自立促進

介護者

介護が楽になり、
拘束時間が減少

生活領域が広がり、経済活動全体が活性化

高齢者外
出時間増

1日中
ベッド上
で過ごす
者減

在宅療養
割合増

在宅透析
の割合増

在宅の看
取りの割合
増

障害者の
外出時間
増

介護・看護
時間減

目標：「技術が助ける明日の生きがい」

実用化された技術を普及するための施策

普及啓発・ニーズ

利用者のニーズ・満足度に基づく製品評価と開発への循環
バリアフリーなど障害者等の身体機能・生活機能支援技術のため、学問的な融合領域研究を支援。

提供体制の確保

適切な技術活用が可能な医療専門職や福祉専門職の育成
在宅での機器の使用・訓練などの技術使用の環境整備

技術評価

技術に対する適切な評価

研究開発力

課題

関係者のニーズをとらえる仕組みの構築

開発した製品及び技術の適正評価と普及

基盤的技術・最先端技術の研究開発の総合力の底上げ

人的・物的資源への選択と集中

革新的製品に対応する規制の最適化

汎用技術促進

使いやすい次世代福祉機器、生活支援知能ロボット、在宅医療技術など

汎用機器(次世代福祉機器等)
・在宅技術の評価

医療・福祉現場と産業・研究機関による開発連携の支援
ニーズとミッションに基づく産官学患の開発の枠組み
(「使う側」と「作る側」をマッチングさせて研究開発助成)

支援施策

開発促進施策・
人材育成
実用・定着
促進施策

- ・ニーズに基づく、革新的技術開発とその汎用化
- ・汎用化による新たなニーズに基づく技術革新

牽引施策

ニーズ・市場創出・
国民啓発
技術評価の満足度

革新的技術促進

新治療薬、パワースーツ、感覚障害補助具、遺伝子治療、再生医療など

ベンチャー企業育成策の確保・増強

医学と工学の連携による研究の推進と人材の養成

臨床研究センターと医療クラスターの形成

医薬品・医療機器承認審査体制の増強等

革新的技術の評価

イノベーション推進基盤の構築
(技術実用化基盤形成のための施策)

一丁ズを踏まえた技術の創出